19 各種心室内伝導障害例において運動負荷心筋ECTは冠動脈疾患の検出に有用か。

俵原 敬，倉田千弘，田口貴久，青島重幸，小林 明，山崎 昇（浜松医科大学第三内科）

各種心室内伝導障害を有する87例と心室内伝導障害のない349例（コントロール群）における運動負荷心筋ECT（EX－ECT）の冠動脈疾患に対する診断能について検討した。コントロール群の感受性は93％で，特異性（SP）は94％であった。それに対し，各種心室内伝導障害例のSPはCRBBB群（86％），CRBBB＋LAD群（50％），CLBBB群（30％），RV Pacing群（44％），WPW群（90％）であった。EX－ECTによる冠動脈疾患の診断は，CRBBB群およびWPW群では有用であるが，CLBBB群，RV Pacing群およびCRBBB＋LAD群ではコントロール群に比しSPが有意に低く（P＜0.01），冠動脈疾患の診断には注意が必要である。

20 下肢RI-Venographyによる深部静脈血栓症の評価

小須田茂，川上亮二，秋田佐喜子，目崎高志，鈴木謙三，栗林徹*，久保敦司*，橋本省三*
（都立駒込病院放射線科，*慶応大学放射線科）

下肢の浮腫，疼痛，発赤等を主訴とした30症例に対して，踝上部駆血または駆血せずに Tc-99m-MAA または HSA 370MBqを足背静脈より静注し，深部静脈血栓症における下肢 RI-Venography の有用性を検討した．

その結果，50％以上の症例において，膝窩から下大静脈の範囲内に，血栓症を示唆する断絶像，うっ滞像，側副路の描出が認められた．肺血流スキャンでは70％に多発性欠損像が認められた．下肢静脈血栓は，1例を除き，左側のみに検出され，肝内 hot spot が認められた1例は下大静脈閉塞を合併していた．下肢 RI-Venographyは深部静脈血栓症のスクリーニング検査として有用と思われた．

21 全身性血栓症の診断における^{111}In-標識血小板による血栓シンチの有用性

川杉和夫（帝京大学医学部第一内科） 木下敦、新尾泰男（同放射線科） 国安芳夫（昭和大学藤が丘病院放射線科）

今回われわれは、先天的アンチトロンビンⅢ（ATⅢ）欠乏症に合併した全身性血栓症の診断に、^{111}In-PLTによる血栓シンチが非常に有用であったので報告する。症例は17歳男性で発熱と下肢の疼痛を主訴に入院。入院後肺塞栓症を合併し、全身検索のため^{111}In-PLTによる血栓シンチを行った。その結果、両側の肺静脈、下大静脈、さらに両下肢静脈に血小板の集積像が認められ、全身に血栓が多発していることが判明した。また、ATⅢの活性の分析などより本例は先天的ATⅢ欠乏症と診断され、それが全身的な血栓症の原因と考えられた。

22 Tc-99m labeled recombinant tissue plasminogen activator（Tc-99m-r-t-PA）の生体内分布と血栓描画 - 血栓モデルラットと対照群における検討

塚本江利子、伊藤 和夫、鐘ケ江香久子、古舘 正從（北大核医学）

ラットにおけるTc-99m-r-t-PAの生体内分布と下大静脈に作成した血栓の描画の可能性を検討した。Tc-99m-r-t-PAは、前回の総会で報告した方法で標識し、対照群と血栓モデル群に投与した。ラットは、経時的に脱血死させ、各臓器の放射能を測定した。両群とも血中からの速やかな消失と肝への移行、腎よりの排泄がみられた。胃への集積はほとんどなく、また、経時的な増加はみられなかった。Tc-99m-r-t-PAによるイメージング上、血栓部は、周囲の血液プールとのコントラストが弱く、血栓の鮮明な描画には、血栓モデルや投与方法の工夫が必要と思われた。

Presented by Medical*Online